

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

今がシーズン真っ盛りの欧洲障害戦線において、ハーダル路線に出現した「超新星」と言われているハーネサックル(牝5、父スマラニ)が、今月のこのコラムの主役である。

英國産馬で、1歳になつたばかりの15年1月にDBBS1月市場に上場されて主取りになつた後、3歳6月にタタソールズ・ダービーセールにて、馬主マーク・オベア氏に9500ユーロ(当時のレートで約123万円)で購買されたのがハーネサックルだ。オベア氏の妻であるサラ・オベア氏の所有馬として、満4歳の誕生日を6日後に控えた18年4月22日にドロマヘインのポイント・トウ・ポイント競走(芝24F)でデビュー。これを15馬身差で勝ち、見事に初陣を飾つている。

そのわずか4日後の18年4月26日に開催された、パンチエスタン障害現役馬セールに上場された同馬を見初めたのが、G1クイーンマザーチャンピオンチャイエス(芝15F 1999Y)を含む8つのG1を制したサイジングヨーロッパらを手掛けたことで知られるヘンリー・ド・ブロムヘッド調教師で、代理人のラスセアスタッフを通じて同馬を購買。この時の価格は11万ユーロ(当時のレートで約1482万円)だったから、ポイント・トウ・ポイント競走を1勝したことで、同馬の価値は10倍以上も

伸び上がつたことになる。

プロムヘッド師のクライアントの一人で、あるケニス・アレグザンダー氏の所有馬となり、ハーネサックルは、18年11月14日にハーダルデビュー。フェアリーハウスのメイドン(芝20F)を12馬身差で制した同馬は次走、12月22日にサールスで行われたLRボリーンベル・メアズノーヴィスハードル(芝16F)に駒を進め、こゝも3.1/4馬身差で快勝している。続いて、19年1月26日にフェアリーハウスで行われたG3ソレーナ・メアズノーヴィスハーダル(芝18F)に挑み、こゝも6馬身差で快勝し重賞初挑戦初制覇。更に次走は4月21日にフェアリーハウスで行われたG1メアズノーヴィスハーダル・チャンピオンシップファイナル(芝20F)に駒を進め、こゝも5.1/2馬身差で制しG1初制覇を果たしている。

ハーダル初年度を4戦無敗の成績で終えた同馬の、今シーズンの初戦となつたのが11月12日にフェアリーハウスで行われた一般戦(芝20F)で、同馬はこゝも11馬身差で快勝。ハーダル転身以降の成績を5戦5勝とし、この間に2着馬についた着差の平均が7.1/2馬身差というハーネサックルが、ついにこの路線の最強クラスと対戦したのが、12月1日にフェアリーハウスで行われたG1ハットンズグレイスハーダル(芝20F)だった。

ハーネサックルが今後どの路線に進み、連勝がどこまで伸びるか。日本のファンにとって、皆様もぜひ注目いただきたい。

ハットンズグレイスハーダルは、97年・98年とイズタブラークが連覇している他、ライムストーンラッド、ソレリーナ、ハリケーンフライといつた名馬が直近の勝ち馬に名を連ねるハーダル20F路線の重要な一戦だ。そして16年から18年にかけては、近年最強の牝馬ハーダラードと讃えられているアップルズジェイドが3連覇しており、19年の同競走には、レース史上初の4連覇を目指すアップルズジェイド(牝7、父サドラーーズマイカ)も出走している。更には、チャルトナムのG1スティーラーズハーダル(芝23F 213Y)の昨季の勝ち馬ペンヒル(駆8、父マウントネルソン)、昨季のG1パンチエスタン・チャンピオンステイヤーズハーダル(芝24F)2着馬で、今季初戦のG2リスマレンハーダル(芝20F)を9.1/2馬身差で快勝していたバカラーディーズ(駆8、父コースタルパス)らも顔を揃えていて、つまりは、これまでとは比べてもない強敵揃いだったのが、G1ハットンズグレイスハーダルだったのだ。

結果は、ハーネサックルが後続に9馬身差をつける圧勝。「この馬は本物だ!」と、関係者もファンも絶賛することになったのである。

ハーネサックルが今後どの路線に進み、連勝がどこまで伸びるか。日本のファンにとって、皆様もぜひ注目いただきたい。